



第14回高分子分析討論会報告【2009】

2009年11月4、5日の2日間、高分子分析研究懇談会主催の高分子分析討論会が、工学院大学で開催された。本年は、発表件数が過去最高の100件、参加者が306名となり、高分子分析に対する関心の高さが示された。

討論会は、西本右子 実行委員長（神奈川大学）の挨拶で開会后、ポスタープレビュー講演が行われた。前年までは、プレビュー講演時間が3分間であったが、発表件数の増加に伴い、2分30秒に短縮された。発表内容は、構造解析、表面分析、反応解析など多様なものであった。4回行われたポスター発表での議論は、非常に活発に行われ、1時間30分の発表時間が短く感じることもあった。

特別講演としては、初日に「バイオベースマテリアルの新展開：バイオマス度と生分解性識別法の観点から」と題して、京都工芸繊維大学大学院（生体分子工学部門）の木村良晴教授がお話しされた。バイオベースポリマーの構造からその評価法まで多岐にわたるお話で、環境対応が求められる今後の研究開発において、有用な知見がいただけた。二日目は、「構造制御された高分子薄膜の相転移」と題して、首都大学東京大学院（都市環境科学研究科）の吉田博久教授がお話しされた。斜入射X線回折やDSC-RTIRなど用いたナノスケールの構造解析や相転移の解明のお話は、高機能化が求められる高分子材料開発にとって、非常に重要だと感じた。

1日目の夜に開催された懇親会では、日本分析化学会の中村洋会長をはじめ、多くの方々が参加された。中村洋会長の挨拶により懇親会が始まり、会場が狭いと感じるほど盛況に行われた。

2日目の最後に、大谷肇 運営委員長(名工大)より、閉会の挨拶が行われ、第15回高分子分析討論会は、高分子分析研究懇談会50周年記念事業の一環で、国際学会として開催するとのアナウンスがあった。第15回高分子分析討論会（国際学会）は、2010年12月8日(水)～10日(金)に名古屋国際会議場で開催される。

ポスター賞は、歴代運営委員長・実行委員長の選考による「審査員賞」が2件、ポスター発表者の投票による「ポスター賞」が4件あり、懇親会および閉会の挨拶の時に、大谷肇 運営委員長(名工大)より授与された。下記に受賞したポスター賞を紹介する。

審査員賞

「硫酸液抽出を前処理とするポリマー中のHALSの選択的・包括的分析法の開発」 佃由美子（三菱化学アナリティック）

「種々の誘導化試薬を利用した劣化した漆膜への高感度分析法の検討」 本多貴之（明治大理工）

ポスター賞

「熱走査FT-NIR を用いたエポキシ樹脂硬化反応の挙動追跡」 山崎秀樹（日東分析センター）

「蒸発光散乱検出器(ELSD)を利用したヒンダードアミン系光安定剤(HALS)の定量化の検討」 森下雅史
(日東分析センター)

「ピンポイント濃縮法による微量高分子材料の組成分析」 森脇博文（東レリサーチセンター）

「水熱プロセスを利用した架橋高分子材料のネットワーク構造解析」 石田康行（中部大）

〔日産化学工業（株） 小澤智行〕

